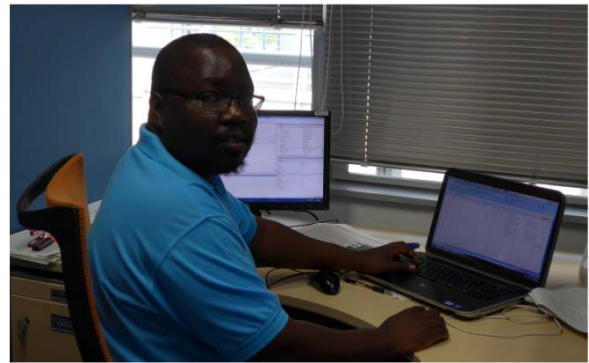


大学名	政策研究大学院大学		
University	National Graduate Institute for Policy Studies		
外国人研究者	テレンス カイリザ		
Foreign Researcher	Terrence Kairiza		
受入研究者	園部 哲史	職名	副学長、教授
Research Advisor	Sonobe Tetsushi	Position	Vice President/ Professor
受入学部/研究科	政策研究科		
Faculty/Department	Graduate School of Policy Studies		

<外国人研究者プロフィール/Profile>

国籍	ジンバブエ
Nationality	Zimbabwe
所属機関	ビンドゥラ科学教育大学
Affiliation	Bindura University of Science Education
現在の職名	講師
Position	Lecturer
研究期間	79日間
Period of Stay	79 days
専攻分野	開発経済学
Major Field	Development Economics



政策研究大学院大学の研究室にて/At his office in National Graduate Institute for Policy Studies

<外国人研究者からの報告/Foreign Researcher Report>

①研究課題 / Theme of Research
The Roles of Managerial Training and Social Networks in Managerial Improvement and Firm Performance: Experimental Evidence from Tanzania A growing number of studies are increasingly associating the low growth of the majority of enterprises in developing countries to problems with management in those enterprises. This research assesses whether management practices taught to entrepreneurs in management training programs can diffuse to those entrepreneurs that are not treated in management training programs.
②研究概要 / Outline of Research
Our study design allows us to mitigate potential biases generally attributed to the endogeneity of social networks by using a four year panel data and spatial econometric techniques in an experiment where treatment is offered to randomly selected entrepreneurs at different time intervals allowing us to identify instances where new information about management training is available to untreated entrepreneurs.
③研究成果 / Results of Research
We find that the increase in the adoption of new management practices due to treatment is compounded by social interaction with treated entrepreneurs. Moreover, those entrepreneurs that are not treated during the management training program tend to benefit more from social learning than those that are treated.
④今後の計画 / Further Research Plan
We intend to investigate the precise channels through which social learning actually occurs. The next part of the research will therefore to collect a more detailed information about the communication patterns of the sample entrepreneurs such as whether they talk to each other, visit each other's workshop for us to have a more detailed understanding of how the social learning actually occurs.

<受入研究者からの報告/Research Advisor Report>

①研究課題 / Theme of Research

アフリカで産業発展が遅れていることの重要な原因の一つは、企業経営の基本的な知識・スキルが不足していることにあるという仮説を検証するには、経営者に経営の基礎を教えて、企業の業績が伸びるかどうかを調べればよい。この外国人研究者は、2010年に受入研究者が世界銀行とJICAから資金的支援を得てタンザニアでそうした実験を行った際に、現地ですべてに参画して博士論文を書いた。この度の受入期間中の研究課題は、経営研修の内容がロコモでどの程度広まっていくのかを分析することであった。これにより、経営研修を産業発展のための手段として政策的に実施する場合の、企画立案に役立つ知識を提供することが目標である。また、多くの途上国でNGO等が女性経営者を支援するプログラムを実施しているので、研修の受講による経営の改善が、経営者が男性であるか女性であるかによって異なるのかを分析することも課題とした。

②研究概要 / Outline of Research

先進国や新興国では大企業ばかりか中小企業でも日常的に行っている生産、品質、在庫の管理や経理の方法がタンザニアでも実践されているかを、ランダムに選んだ小企業において調査した。そのサンプル企業からさらにランダムに選んだ企業に対して研修を行い、その後繰り返しサンプル企業の追跡調査を行ってパネルデータを構築した。追跡調査では、経営や業績に関する事柄に加えて、研修を受けなかったサンプル企業が、研修を受けた企業と何らかの取引や交流をしたか、あるいは研修について話したかという情報や、近所に研修を受けた企業がいるかという情報も収集した。今回の受入期間中はこうしたデータを駆使して、研修から受講者が得た知識が受講しなかった経営者に伝わる程度が、地理的な近さ、人間関係の濃密さ、男性から男性あるいは女性へといった性の組み合わせに依存するのかを分析して、論文をまとめた。

③研究成果 / Results of Research

経営研修で教えた標準的な管理手法のうち重要で、主にオフィスで使われるもの10種類と、主に作業場で使われるもの10種類を選び、これらの手法のうちのいくつが実践されているかを調べて企業に点数をつけた。その点数を被説明変数とし、研修を受けたかどうか、近所に受講した企業がいるかどうか等を説明変数とした回帰分析を行った。その結果、多くのことが明らかになった。例えば、オフィスで使う手法の点数は、受講した企業経営者と研修の話をした企業で高いのに対して、作業場で使う手法の点数は近所にある受講企業がいる場合に高く、そうした企業と交流があれば更に高い。これは作業場用の管理手法は実際に見せてもらわないと伝わり難いことを示唆している。また男性経営者の方が女性経営者よりも他の経営者との付き合いは狭いが、研修を受けた場合には研修から、受けなかった場合には受講者から知識を貪欲に吸収することが分かった。

④今後の計画 / Further Research Plan

まず、作成した2本の論文を速やかに国際的な学術誌へ投稿する予定である。その後は次の二つのことを計画している。一つは、今回用いたパネルデータから、経営研修をより良くデザインするための知見を引き出し、経営知識普及のために経営研修を大規模に実施するための知的基盤を政策立案者に対して提供することである。そのようなデータ分析や論文作成を、電子メールやスカイプ等を通じて引き続き指導して行く。もう一つの計画は、この外国人研究者の母国であるジンバブエにおいて経営知識の普及状態について調査を行い、研修実験の実施も視野に入れて、同国で研究を展開する可能性を探っていくことである。同国はアフリカ南部諸国の中で特に教育水準が高く経済発展も進んでいたが、約15年前から圧政とハイパーインフレーションのために経済が荒廃していた。研究と実践を結びつけて復興に貢献したいというこの研究者に協力してゆきたい。